

圓久寺だより

第 13 号 平成 21 年 6 月

● お盆のご案内です

いかがお過ごしですか。この春は、世界中でインフルエンザが流行しました。わずかな期間に、人から人へ、瞬く間に伝わるのだ、ということ。人間の持つ能力（善くも悪くも）の大きさを実感しました。

さて、圓久寺では、毎年恒例ですが、7 月お盆から 8 月のお盆までの 1 ヶ月間を「お盆月間」とさせていただきます。

みなさんから頂くご相談に「お盆は 7 月、8 月どちらに勤めればよいのですか」と迷われる方がいらっしゃいます。実際、地域によって異なることもありますが、実家が 8 月お盆なので我が家も 8 月に勤めてます、という横浜、川崎の方もいます。

お盆の迎え方には、

◎お坊さんを自宅に招いて供養する。棚経（たなぎょう）と云います。ご家族と一緒に参ります。ふだん着でお気楽に。

7 月は、11 日（土）12 日（日）13 日（月）14 日（火）15 日（水）の 5 日間。

8 月は、13 日（木）14 日（金）15 日（土）16 日（日）の 4 日間。尚、埼玉方面は 13 日に廻らせていただきます。この期間は朝 9 時から、夕方 5 時位までの間廻ります。

◎お寺のお盆法要にお参りする。

8 月 8 日（土） 午後 2 時より

圓久寺本堂にて（午後 1 時より受付開始）

お盆供養料は、1 家族 5000 円です。また、お塔婆供養は 1 基 3000 円です。

駐車場は約 10 台分ありますが、なるべく電車、バス等でお越しください。ご家族（施主）には、返信はがきを同封させて頂きました。7 月末まで送ってください。

鎌倉駅西口（江ノ電側出口）前のパーキングに停めて、タクシーでお参りする方もいます。市役所前からバスで「八雲神社前」下車です。

◎新盆を迎える方

初めてお盆を迎えるご家族は、ご自宅で営む（親族を招く方、家族だけで営む方、みなさんそれぞれです）お寺のお盆法要にお参りする、霊園の施設などで行う、いずれかになると思います。「お盆月間」の中で日程を組んだらいかがでしょうか。（土日を希望する方が多いです。早めにお申し込みください）

形式にとらわれすぎずに、毎年続けていけるようにしましょう。現代社会はやたら忙しく、家族、兄弟が全員揃うこともなかなか叶わないことも。せめて、お盆の供養を通じて家族の絆を深めることができたら、と思います。

※ 不明の点は遠慮なくお問い合わせください。

● 盂蘭盆会（うらぼんえ）

「お盆」は盂蘭盆会といえます。仏さまの弟子に、神通力第一といわれた目連（もくれん）尊者がいました。餓鬼道に堕ちて飢えと渇きに苦しんでいる母を救おうと仏さまの教えに従って、多くの僧を招き、さまざまな食物、飲み物を供えて供養したことにより母を救うことができたといえます。日本では聖徳太子の時代にすでに行われていたそうです。古来「先祖の霊が帰る」という民間信仰と、盂蘭盆会とが融

合して、現在の「お盆」の形になったと考えられています。

明治時代に新暦（太陽暦）が採用され、7 月が農繁期に当たるようになってからは、1 か月遅らせて「月遅れ盆」として行うようになりました。

目連尊者の母は、「慳貪の罪」（けんどん、意は、けちである、金銭、言葉、思いやりなどを出し惜しむこと。荒々しく、愛想のないこと。欲深く食ること）によって餓鬼道に堕ち、その報いを受けました。これが「お盆の教え」です。私も、あなたも、自身の行ないを振り返れば、心がきゅっと痛むような慳貪の罪を自覚するはずです。

物を惜しむ、だけではなく、思いやりの言葉さえ惜しむ心。（ありがとう、がんばってるね、大丈夫だよ、信じているよ、わかりますよ、たった数文字なのに言えないのです）

自分さえ満足すれば良しとする自己チューな自分。

部下を怒鳴りつけ憂さをはらす上司。（怒りは自分が不安だから人に向けてしまいます）

会社、上司への愚痴ばかり言う社員（仕事ができない人ほど悪口をいいます）

「いらっしゃいませー」と笑顔でお客さんを迎えることをしない店員。（給料ドロボーです）

子どもにファストフード、コンビニ弁当ばかり食べさせるお母さん。

（お母さんの手料理は愛情表現なのに残念です）

家のことは奥さんに任せているくせに、いざ問題が起きると責任を押しつける夫。（大黒柱は女房、の時代です）

横道から入ろうとしている車がいることを知りながら、わざと入れさせないドライバー。（自分が走っているわけではないのに）

気づいていながらお年寄りに席をゆずらない若者。（寝ていても自分が降りる駅に着くと、さっと起きれるんです、なぜか）

社員の給料を減らしても平気でいられる社長。（経営者失格です）

このように「自分」を振り返る。積極的に生きていますか・人に優

しくしていますか・ありがとう、と素直に言えていますか・と。

優しくなりましょう。

人にも。自分にも。

ひとつの詩を紹介させていただきます。

大きなことを成し遂げるために 力を与えてほしいと
神に求めたのに
謙虚さを学ぶようと 弱さを授かった
より偉大なことができるようにと 健康を求めたのに
より良きことができるようにと 病弱を与えられた
幸せになろうとして 富を求めたのに
賢明であるようにと 貧困を授かった
世の人々の賞賛を得ようとして 成功を求めたのに
得意にならないようにと 失敗を授かった
人生を楽しもうと たくさんのものを求めたのに
むしろ人生を味わうようにと シンプルな生活を与えられた
求めたものは何一つとして与えられなかったが
願いはすべて聞き届けられていた
私はあらゆる人の中で もっとも豊かに
祝福されていたのだ

今の自分、与えられた環境は、すべて私にふさわしいもの。

なぜならば、すべて自分がまいた種だからです。

暑さ厳しい夏をむかえます。それもまた恵みです。子どもが夏休みをわくわくしながら迎えるように、楽しみにしましょう。